

即ち、吾人は、こゝに混迷せる思想航海の旗艦として、克く
濟生到彼岸の重責を果すに、必要にして且つ充分なるもの、名

付けて「ニチレニズム」を提供し、高揚するものである。

以上

三ツ子の魂に與ふべきは？

加 藤 智 學

近代科學文明の發達せる結果生じた經濟生活、精神生活の兩
面に於ける不安と焦慮は民衆の恐怖である。その弱点を窺ひ、
忍び寄る類似宗教の青毒著しき今日、我等のなすべき急務！そ
は聖祖が末法萬年への垂教、絶對的根基本原理たる一大秘法の深
奥を究明し、それが根本原理の絶對性をして實際化し聖祖の一大
理想たる立正安國を實現すべく、布教線の擴張を計り、社會民
衆の指導に當るべきである。而して社會民衆、それが組織する

の存するは餘りにも當然すぎるかも知れないが、それは本山當
局の社會事業の一として大正十年聖誕七百年を記念するために
産聲を挙げ、先輩諸氏の努力に依り十六年を経た今日は身延小
學校八百の全生徒を會員として、毎週土曜日に開會せられ、内
みに創立以來講師は祖山學院生是を擔當す、尙此の外二三の支
部を有してゐる。

私は此の會に關係を有し講師の末席を汚して得た、極く淺薄
ではあるが、些かの經驗よりその必要を感じその一端を述べる
ものである。

むべき必要性を述べんとするものである。先づその例として、
身延立正子供會の沿革を一言すれば、宗祖が天竺の靈山、日域
の比叡山にも跡れたる地として九ヶ年の御生活があり、永へに
魂を止むべき處なりとせられて經る事七百年、その不滅の靈光
の輝きを仰ぎ、絶へざる法流を掬する身延に斯の如き事業施設

純情無垢の童心は天真爛漫、そのものにしてその鋭敏に且つ
豊富なる感受性は未だ善惡を識別する能力を有しないのみか、
それは環境に支配せられて、社會有爲の士たる素地を、時には
社會を呪ふ反逆者ともなつて生長して行くのである。その大切
な出发点、所謂三ツ子の魂へ投じてやるべきは、正しき智慧で

三ツ子の魂に與ふべきは

二二一

ありそれと共に潤ひのある宗教心であらねばならない。智慧は正邪分別と自己の進むべき正道を指示し、宗教心は力強い信念となり、生活の潤ひを與へる。此の智慧と宗教心の一は學校教育であり、他は子供會等の施設により宗教教育に依つて彼等の情操は高められて行くのである。彼等の純眞なる童心に植え付けられた宗教心はやがて堅固な信念となり力強く萌芽してゆくのである。三ツ子の魂は百までと云ふが如きはそれであり、此の宗教情操教育は時代の要望せらるゝ第二の國民を養成する上に其の必要を認めるのである。此の必要性よりして論ぜられる方法とその内容は如何と云ふに、その最も完全に學校教育と提携された身延立正子供會の如きが良き例であるが、此は特殊なものでその他に於ては子供會、日曜學校等の施設を企畫し、寺院等に催して、それがなさるべきである。が、我宗門に於ては

觀の究竟

一切有相のものは瞬時と雖も靜止しておらず時々刻々遷流してゆく。この遷流の法を觀照して現象の背後にある本體を掴まんとして古代の哲人をして疑惑せしめ冥想せしめた。哲人達が

現在餘りにもその方面の事業を看過してゐはしないだらうか、眞の宗教であり、絶對的指導原理を有して最高のものである一大秘法の妙法五字をして實際化して衆生を救済せんとするに先づ彼等をして彼等の魂の中に此を打ち込んでやるべきである。又彼等の人格陶冶に資するには、偉にして大なる宗祖の御人格をして折にふれ時にふれて彼等の腦裡に刻ましめる事に依つて成長してゆく彼等の人格はよりよく完全なものである。

私達は此れに携るよき指導者として、彼等の微妙不可思議の心理を理解しその心理狀態を利用して、その目的を達する事が出来る。聖祖門下の布教線を承る私達は幼き者への布教を、次代を形成する者への魂をして、日蓮が魂を彼等の魂たらしめて聖祖の理想實現を期したいものである。

田 中 泰 勵

思索の道深く智慧の燈をかがげて神秘なる世界の扉を叩き、靈の覺醒と生活との調和を求めたのも現象界の奥にある自然の偉大なる力が心絃に觸れたのに依るのである。佛陀は人生問題の